令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会
施設名	札幌市こどもの劇場やまびこ座
内定額	10,559　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型（公演・人材・普及）が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　　業　　名	実施日程	実施会場
公-01	「いいだ人形劇フェスタ」派遣交流事業	令和7年8月7日～8月10日	飯田文化会館 黒田人形浄瑠璃伝承館
公-02	インクルーシブ公演事業	①令和7年9月20～21日 令和7年10月12～13日 令和8年1月7～8日 令和８年2月7～8日 ②令和7年12月14日 ③令和7年12月19～21日	①やまびこ座 こぐま座 ②やまびこ座 ③やまびこ座
公-03	札幌国際人形劇フェスティバル	①令和7年7月25～28日 ②令和7年9月6～7日 ③令和7年5月3～4日 令和７年7月6日 令和７年8月3日	①やまびこ座 ②こぐま座 ③やまびこ座 こぐま座
公-04	国内プロ劇団招聘公演「やまびこ座・こぐま座特別公演」	①令和7年11月1～3日 ②令和7年12月26～27日 ③令和8年1月17～18日	①こぐま座 ②やまびこ座 ③こぐま座
人-01	児童演劇育成事業	①令和7年6月7日 ～令和8年1月10日 ②令和7年6月14日 ～令和8年1月25日	①②やまびこ座
人-02	人形浄瑠璃育成事業	①令和7年6月17～20日 8月26～29日 令和9月30日～10月3日 令和12月9～14日 ②令和7年5月21～23日 令和７年7月2～4日 令和７年9月17～19日 令和７年12月10～14日 ③三人遣い 令和7年6月21・22日 令和７年10月4・5日 義太夫 令和7年7月5・6日 令和７年9月20・21日	①②③やまびこ座
人-03	人形劇未来創造事業	①②令和7年5月～令和8年3月 ③令和7年6月～令和8年3月 ④令和7年4月17日～7月21日 ⑤令和7年6月3日～10月28日	①札幌市児童会館 千歳市児童館 やまびこ座 ②こぐま座 ③やまびこ座 こぐま座
人-04	表現者のためのスキルアップワークショップ	①令和7年4月17～19日 ②令和7年6月29日 ③令和7年7月23～26日 ④令和7年10月17～18日 ⑤令和7年10月30～31日	①やまびこ座 ②こぐま座 ③やまびこ座 ④こぐま座 ⑤こぐま座

（2）〔基礎データ〕

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業	81	76	74
	公演事業	49	40	37
	（内、本助成対象事業本数）	0	7	9
	人材養成事業	12	24	16
	（内、本助成対象事業本数）	7	10	14
	普及啓発事業	12	9	12
	（内、本助成対象事業本数）	0	6	0
	共生社会事業			
	（内、本助成対象事業本数）			
	その他　内容：　地域共生事業	8	3	9

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	535	552	525
	ホール名：やまびこ座ホール　座席数：200	254	268	256
	ホール名：こぐま座ホール　座席数：90	281	284	269
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	18,127	17,966	25,986
	公演事業	9,310	7,740	17,157
	人材養成事業	4,387	5,362	5,237
	普及啓発事業	2,285	3,896	2,580
	共生社会事業			
	その他　内容：　地域共生・アウトリーチ事業	2,145	968	1,012
	貸館事業入場者・参加者数	34,205	39,233	27,414
	その他　内容：　施設見学・研修・図書コーナー利用等	30,310	40,617	44,773
	計	82,642	97,816	98,173
開館日数		309	307	308
施設の利用可能日数　（＝365－（保守点検日数+休館日数））		309	307	308
施設の利用日数		309	307	308
施設の利用率(%)　（＝利用日数/利用可能日数）		100.0%	100.0%	100.0%

備考	

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	49	77	9,310	48	0	0	1	0	0	0
	共催・提携公演（※2）	6	24	1,778	5	0	0	1	0	0	0
	貸館公演	4	300	12,963	4	0	0	0	0	0	0
	計	59	401	24,051							
令和6年度	主催公演（※1）	40	72	7,740	39	0	0	1	0	0	0
	共催・提携公演（※2）	3	13	1,247	2	0	0	1	0	0	0
	貸館公演	4	335	16,208	4	0	0	0	0	0	0
	計	47	420	25,195							
令和7年度	主催公演（※1）	37	97	17,157	33	0	0	4	0	0	0
	共催・提携公演（※2）	2	8	1,353	1	0	0	1	0	0	0
	貸館公演	4	316	13,943	4	0	0	0	0	0	0
	計	43	421	32,453							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

- 公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
- 入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
- 有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
公-01	「いいだ人形劇フェスタ」派遣交流事業	目標値	1,080	75.0%	①観客の満足度	4.2以上	4.6
		実績値	746	51.8%	②事業参加者評価（批評・ニーズ調査）	8名以上	22名
公-02	インクルーシブ公演事業	目標値	1,400	53.0%	①観客の満足度	4.2以上	4.6
		実績値	1,126	42.7%	②特別支援学校の招待生徒とその保護者及び教職員対象とした定性的評価	10名以上	12名
公-03	札幌国際人形劇フェスティバル	目標値	1,270	52.9%	①観客の満足度	4.2以上	4.4
		実績値	1,464	61.0%	①札幌市外からの集客率	10%以上	12.80%
公-04	国内プロ劇団招聘公演「やまびこ座・こぐま座特別公演」	目標値	890	78.5%	①観客の満足度	4.2以上	4.5
		実績値	913	80.5%	②団体観劇の団体数及び人数	4団体以上/100名以上	7団体/121名

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会
施設名	札幌市こどもの劇場やまびこ座
内定額	10,559　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等)」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価
公-01	「いいだ人形劇フェスタ」派遣交流事業	長野県飯田市で毎年開催されている国内最大級の人形劇の祭典「いいだ人形劇フェスタ」に上演参加し、障がい児とつくる人形劇「北のおばけ箱 1」、伝統人形芝居公演「座・競演」の２つの公演企画を実施した。やまびこ座・こぐま座の人材育成事業、インクルーシブの取り組みなどを広く全国に PR する機会となった。「座･競演」では国内４座の若手が共演。刺激を与え合うことで次世代の文化を担う人材育成を図ることができた。この事業を通じ多くの経験をした子どもたちの成長は目まぐるしく、活動意欲や自信の高まりにもつながった。事業参加者･保護者からの評価においても 4.6 と高い評価を得ることができた。
公-02	インクルーシブ公演事業	聴覚障がいの有無に関わらず誰もが文化芸術を享受し一緒に楽しめる作品作りを目指し、人形劇・児童劇・人形浄瑠璃のそれぞれに舞台手話通訳をつけた公演を実施した。定期的な公演を行いレギュラー化を目指して取り組んだところ、障がい当事者からは大変好評で、継続して観劇に訪れる観客が増加した。課題としては聴覚障がいのあるこどもたちの観劇数が想定よりも少なかったことがあげられる。今後も継続して実施するためには、保護者へ向けた PR を積極的に行うことが必要である。また、人形劇公演においては、インクルーシブな視点を強く打ち出したがために、聴覚障がい者に特化した公演と勘違いされ、観客数が伸びなかった可能性も否定できない。PR の段階で誤解がないよう伝ええるとともに、誰もが観劇を楽しめる環境づくりを他の劇場・音楽堂と連携し取り組みを広めることが必要であると感じている。
公-03	札幌国際人形劇フェスティバル	札幌市民に対し世界の舞台芸術や人形劇に触れる機会を創出することを目的に、７月にはプーク人形劇場（東京都）とソフィア人形劇場（ブルガリア）の共同制作作品を上演した。また、９月にはこぐま座でピクニックシアターを実施し、札幌在住の外国籍の方や世界各国から訪れた観光客など、多くの方々が野外での公演を楽しんだ。人形劇という世界共通の文化を通じ、参加者が異国の人形劇に触れ、言葉は通じなくとも心を震わせる体験をしたり、劇団関係者が人形の仕掛けや操作を教えてもらったりするなど、自然と交流をする場面が多く見られた。
公-04	国内プロ劇団招聘公演「やまびこ座・こぐま座特別公演」	こどもたちが良質な人形劇に触れる機会を創出することを目的に国内の専門劇団を招へいし特別公演を実施した。こぐま座、やまびこ座での公演のほか、劇場へ足を運びにくい地域のこどもたちを対象として、札幌市内の児童会館へ出向き公演を行った。観劇者からは大変好評で再演を望む声が多かった。文化的な体験はこどもたちの心の成長に必要な要素であるため、今後もこどもの時代から良質な文化に触れる機会を創出し、ひとりでも多くのこどもたちに届けていきたい。

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（2）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
公演事業	①観客の満足度（全ての公演において、アンケート調査を実施し、満足度を 5 段階(5 とても満足・4 満足・3 普通・2 やや不満・1 不満)で評価する。） ②インクルーシブ事業におけるアンケートを実施し、期待度・要望を調査 ③ヤッホーの会（劇場ファンクラブ）	①4.2 以上 ②期待度について回答する人が 80%以上 ③新規 20 名	①　4.5 ②　95% ③　新規 26 名
人材養成事業	①受講者の満足度（各事業の終了後「事業プログラム内容」「講師」「担当職員の対応」「施設の使いやすさ」についてアンケート調査を実施し、総合満足度を 5 段階（とても満足・4 満足・3 普通・2 やや不満・1 不満）で評価する。） ②新規人形劇団の誕生 ③スキルアップワークショップ	①4.5 以上 ②4 劇団 ③全 5 回中 3 事業で募集定員を上回る、総育成者数 50 人	①　4.8 ②　7 劇団 ③　全 5 回中 3 事業で定員を上回った。総育成者数 62 人
普及啓発事業			
共生社会事業			

（※3）・（※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

成果報告書　　札幌市こどもの劇場やまびこ座

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	やまびこ座・こぐま座は人形劇、児童劇、伝統芸能を３つの柱として公演事業実施しており、２つの劇場をあわせ、年間 400 回を超える上演回数を維持している。今年度に関しては、主催事業としていいだ人形劇フェスへの派遣事業、国際人形劇フェスティバル、インクルーシブ公演事業など、年間をとおしさまざまな内容の公演を実施し、公演回数は 413 回を達成することができた。 すべての公演において終演後にアンケート調査を実施したところ、顧客満足度については平均で 4.5 以上となり、年間をとおして常に高い水準を維持することができた。 また、インクルーシブ公演事業では、健聴者も聴覚障がい者も共に楽しめることを目的に、字幕付き公演やムーブアラウンド型の手話通訳付き公演を実施したところ、障がい当事者からも大変好評であった。また、事業参加者アンケートの結果からは、今後に向け期待すると回答した方が 95%となり、事業内容に対する評価、今後の期待度の高さも目標以上の水準となった。 劇場ファンクラブヤッホーの会については、年間を通し定期的に観劇に訪れる方が多く見られ、来年度以降も継続を望む声が相次いだ。

人材養成事業	
自己評価	やまびこ座・こぐま座はこどものための専門劇場として位置づけられており、２つの劇場で年間それぞれ 200 ステージを超える公演のほとんどがアマチュア市民劇団によるものである。その上演回数を維持し、安定した劇場運営を行うためにも、次世代を担う若手劇団の養成が必要不可欠であり、人材養成事業は最も重要な事業として注力し、少しずつ成果が表れてきていると実感している。特徴的な取組としては、こどもから大人までのさまざまな世代やレベルにあわせた講座を実施することで、切れ間なく育成を行えることである。各種講座については、終了後受講生に対しアンケート調査を実施したところ、すべての項目において高い評価を得た。特に、講師・職員のサポート体制については、全員が「とても満足」との回答であり、継続して受講し着実に実力をつけている様子は、長年育んできた人材養成事業の一つの成果であると感じている。新劇団も７劇団誕生し、今後も長く活動を続けられるようサポートを行っていきたい。 表現者のためのスキルアップワークショップについては、多岐にわたるプログラムを実施することで、経験値や興味に応じた選択ができたこと、また、基礎の再確認にとどまらず表現力や演出意図の深化といったより専門性の高い学びとなり、それぞれの創作意欲の向上へとつながり、大変好評であった。

普及啓発事業	
自己評価	

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・(国際プレゼンスの向上) 海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流) アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組) 在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
①外国人来場数 ②公演 3「札幌国際人形劇フェスティバル 2025」について、団体観劇の児童、職員を対象にアンケート調査を実施し、顧客満足度を 5 段階で評価する。 ③招聘劇団と地元人形劇団の交流機会の創出	①200 人 ②顧客の満足度 4.2 以上 ③地元人形劇団 20 名以上の参加	①　280 人 ②　顧客満足度 4.8 ③　地元人形劇団 25 名の参加

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	プーク人形劇団（東京）とブルガリアの専門劇団ソフィア人形劇場を招へいし、共同制作作品「カモメに飛ぶことを教えたドラ猫の物語」の団体観劇を実施した。札幌市内外から 400 名の児童が観劇し、観劇後のアンケートからは、人形が生きているようだった、また見に来たい等の感想が多く、満足度も 4.8 と高評価を得られた。良質の海外作品を市民に提供するという目的は達成できたと感じる。 また、地元の劇団との交流の面では、公演後に身振り手振りでコミュニケーションを図り、人形の操作方法などを教えてもらうなど、言葉や国籍を超えた交流が自然とできており、良い刺激になったとの感想が多く、国際交流の一翼を担うことができた。 外国人来場数については、こぐま座で 2 日間に亘って開催された「あおぞらピクニックシアター」において、札幌在住の外国籍の方や多くの海外からの観光客が野外公演を楽しむ様子が見られた。言葉は通じなくとも観劇をしたり日本の文化に触れる機会があったり、国際都市さっぽろを印象付ける取り組みとなった。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※2）	
	・自由設定の観点（任意）（※3）	

（※2）・（※3）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※4）	目標（値）（※5）	実績（値）
①事業に参画するボランティア団体数（読み語り・お話の会・指人形製作ほか） ②連携する学校等	①8 団体 ②6 か所：小学校 2 校、定時制高校 1 校、学校適応指導教室 1 箇所、支援学校 2 校	①12 団体 ②7 か所

（※4）・（※5）…R7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	やまびこ座・こぐま座では、次世代を担うこどもたちを対象に、人形劇・人形浄瑠璃等の鑑賞会や音響、照明などの舞台裏体験会などの事業を実施した。やまびこ座で実施した「お仕事体験ワークショップ」では、小学５・６年生が参加し、照明や音響、劇場の受付、本番の対応など劇場の仕事を体験し、ワークショップを機に、劇場の仕事に興味を持ったという感想が多く寄せられた。また、近隣の小学校 2 校の授業の一環として、人形劇ワークショップを実施した。台本や人形づくりから最終的には劇場の舞台で公演を行うことを目的に、小学校と連携しながら取り組みを進めた。 また、小学校との連携以外では、定時制高校や支援学校、不登校児童へのワークショップ、大学でのワークショップなど、当初の予定を上回る 7 校と連携し事業を実施することができた。ワークショップ等を通じ、こどもたちに新たな文化体験の機会を創出することにつながった。 そのほか事業実施時の関連団体や、地域の関係団体や企業など、当初の予定を上回る 12 団体がボランティアとして事業に参加した。こどもの劇場が地域のハブとなり、また、こども文化の拠点として地域に根付いた活動につながっていると感じている。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
①舞台手話通訳付･字幕付人形劇の実施 ②アウトリーチ事業の実施回数	①年 3 回 12 ステージ ②20 回以上	①年 4 回 11 ステージ ②29 回

（※3）･（※4）…R7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	舞台手話通訳付・字幕付人形劇公演の実施については、一定間隔で公演を行い、舞台手話や字幕のある公演が日常的なものとして根付いていくことを目標とし、年 4 回 11 公演を実施した。また、人形劇のほか、人形浄瑠璃公演、児童劇公演でも同様に舞台手話と字幕をつけた公演を実施し、目標回数を達成することができた。障がいのあるなしに関わらず誰もが楽しめる作品や環境づくりを目標に実施した舞台手話通訳付き公演は、手話通訳者が役者の一員として舞台に立ち、感情豊かに表現する方法が、耳が聞こえる人も聞こえにくい人も共に楽しめる作品となり一体感が増した様子であった。 アウトリーチ事業の実施については、２９か所へ人形劇の公演のほか、人形浄瑠璃等、各ジャンルのワークショップなど多様なプログラムを提供することができた。芸術や文化はすべての人が享受できるものであり豊かな社会を構成する要素の一つと捉えているが、さまざまな理由から、文化を身近に感じられない人も少なくない。特にこども時代に質の高い文化に触れることは、豊かな心を育むことにつながるとの観点からも、アウトリーチ活動を通しこどもや若者に文化体験機会を提供することができたことを嬉しく思う。また、アウトリーチ事業を実施するにあたり、当劇場のレジデントカンパニー・アーティストの他、アマチュア人形劇団や学校教育施設など多くの協力を得ることができた。今後も活動の趣旨を理解し協力してくれる方々を増やしこども文化を育てていきたい。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※2）
	共生社会の実現に寄与するため、文化芸術による社会的包摂機能を推進する事業を展開する。 当劇場は「子どものための専門劇場」であることから、障害のある子どもたちと「共にあそぶ・共につくる」ことをテーマとした創造体験の機会の創出や様々な文化芸術体験の機会を拡充していく。

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
障害児の事業参画機会の推進	4 事業	6 事業

（※3）・（※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	インクルーシブ事業として、障害の有無に関係なく共に創りあげる舞台「北のおばけ箱１」について、いいだ人形劇フェスティバルでの公演をはじめ、舞台手話通訳付き公演（人形劇・児童劇・人形浄瑠璃）を定期的に実施することができた。上演する劇団側においても、舞台手話通訳という手法で人々に文化を届ける意義や豊かな表現方法を追求する機会となった。 また、障害のある方を対象としたワークショップや公演を積極的に展開した。事業数も当初の予定以外の依頼もあり、想定を上回る６つの事業を展開することができた。 これまでの取り組みが日常的な公演活動の中でも活かされており、障がい当事者の方の観劇や事業への参加が増加していることは一つの成果と感じる。これらの活動が、障害の有無に関わらず、誰もが豊かな体験活動を通してさまざまな可能性を拡げられるきっかけとなるよう、劇団や関係団体と連携し発信していきたい。

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。

（2）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※1）・（※2）…R7年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※1）	劇場のサポーターとして寄付を募り、協賛金の獲得に努めている。	広報誌の配布先を見直すとともに、20～40代の若い世代に向けSNSを利用したショート動画配信等、広報を強化する必要がある。
目標(値)（※2）	一般および地元企業 １２件	観客者アンケートにおける公演周知方法の「各種SNS」の割合を令和６年度比20%増を目指す。
実績(値)	令和7年度は目標値には届かなかったが、令和8年度はこぐま座開館50周年事業を実施する予定となっており、今年度以上に寄付金の獲得に努める予定である。 令和7年度実績　１１件	令和7年度の観劇者アンケート回収率は前年比110%だった。観劇のきっかけのうち「友人・知人から」の割合が最も多く、紙面の広報の割合は昨年より減少した。今年度は若年層への広報活動の一環として、SNSを利用した広報活動の拡充を目指し取り組んだが、効果としては昨年度比18%増に留まった。今後は動画等を取り入れ、見やすく魅力ある広報活動ができるよう、対策を強化していきたい。
団体の自己評価	コロナ禍以降観客数が上向きになっているものの、少子化の影響もあり公演の収益は伸び悩んでいる現状があるが、多種多様のワークショップや講習会を企画することで事業収入獲得に努めた。また、地元企業などの劇場サポーターからの寄付や協賛金は例年通り獲得することができた。	さまざまな世代に届ける広報活動を念頭に、広報誌の配布をはじめ、SNSを活用した広報などに力を入れた。目標値には届かなかったが、新たな取り組みの一つとして、劇場に興味を持った札幌観光大使（インフルエンサー）の発信が後押しとなり、新たな観客の獲得につなげることができた。

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	令和 6 年度においては他の劇場・音楽堂 10 団体と毎月連絡会議を設定し、さまざま事業を実施した。共生社会の実現を目指すため、今後はさらに連携団体を増やしネットワーク強化に努めたい。	月次、年次ごとの事業報告はもちろん、年 2 回開催される運営協議会や業務検査等による進捗確認や協議・アドバイスを定期的に実施。人件費におけるベースアップ分の財源見直しが行われている。
目標(値)（※2）	他の劇場・音楽堂等との事業連携を強化する。 連携数：6 事業	事業財源確保のための方策を設置者と継続協議していく。
実績(値)	令和 7 年度の「他の劇場・音楽堂等との連携事業」は 8 事業であった。北海道内だけに留まらず、道外の劇場・音楽堂と協働で幅広い事業を展開することができた。今後さらに連携できる団体や事業を増やし、ネットワークを広げていきたい。	事業においては毎月の定例の報告、年 2 回の運営協議会、業務監査等を定期的に実施した。施設管理においては都度協議を行った。
団体の自己評価	札幌市内の劇場との連携により、効果的な広報活動を実施するとともに、相互鑑賞の機会が広がり、良い効果をあげることができた。	設置者である札幌市とは、良い関係を構築しており、主催公演等を観劇する機会も多かった。財政的には厳しい面もあるが、理解は深まっていると感じている。

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ) ～ (セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）		
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）		
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）		
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）		
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル･ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）		
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
令和7年度も、札幌市こどもの劇場やまびこ座・札幌市こども人形劇場こぐま座は多くの市民劇団、アーティスト、レジデントカンパニー、舞台スタッフとともに公演事業・人材養成事業に取り組んだ。特に初心者のための人形劇講座をはじめ、経験者を対象とした表現者のためのスキルアップワークショップの実施など、人材養成事業を柱の中心とし取り組みを実施した。また、今年度の重点事業である「いいだ人形劇フェスタ 2025 への派遣事業（長野県飯田市で開催）」では障がい児とつくる人形劇「北のおばけ箱 1」および伝統人形芝居公演「座・競演」の２つの公演企画を実施した。「座･競演」では国内４座の若手が共演し、刺激を与え合うことで次世代の文化を担う人材の育成を図るとともに交流を深めることができた。２つの公演を通し、長年やまびこ座・こぐま座が取り組んできた人材養成事業やインクルーシブの要素を最大限に活かしたさっぽろの取り組みを全国へ発信することができ、高評価を得る機会となった。インクルーシブ事業では、障がいのあるこどもたちがステージ上で主体的に表現する機会を設け、多くの来場者が作品鑑賞や体験型企画に参加した。障がいの有無、国籍、文化的背景、年齢等を問わず、すべてのこどもとその家族が楽しめる構成としたことで、参加者一人ひとりが主役となり、多様な個性が混ざり合う新しい文化体験を創出することができた。そのほか、養護学校や特別支援学級での人形劇鑑賞等の文化体験ワークショップを実施した。また、「舞台手話通訳付き公演」として、人形劇、児童劇、人形浄瑠璃に字幕やムーブアラウンド形式の舞台手話通訳をつけた公演を定期的に実施し、健聴者も聴覚障がい者も同じ舞台を共に観劇できる環境を整備した。今後も障がいの有無に関わらず、だれもが楽しめる共生社会の実現に向けた取り組みを推進し発信していく。 そのほか札幌国際人形劇フェスティバルでは、ブルガリアのソフィア人形劇団を招へいし、日常触れる機会が少ない海外の良質な作品を上演し、多くの札幌市民に観劇の機会を創出することができた。また、さまざまな家庭の事情により劇場に足を運べないこどもたちのために、巡回公演や各種ワークショップを実施し、多くのこどもたちに人形劇等の観劇機会や文化体験機会を提供した。加えて、やまびこ座・こぐま座は「あそび」と「こども文化」の発信だけではなく、地域の関係団体と協働で多角的な事業を展開することで、こどもからおとなまでの幅広い年代の方々がやまびこ座・こぐま座に集い、地域コミュニティ醸成の一翼を担うことができた。やまびこ座・こぐま座を拠点とし、こどもたちが身近に文化に触れることで心豊かに育つことを願い、引き続き取り組みを進めていく。 次年度への懸案事項は、一般公演の観客数の減少である。少子化の影響等が顕著に現れているが、これまでの広報活動だけでは大幅な観客数の増加は見込めないのが現状である。SNS 等を利用した広報を含め、さまざまな年代に届く広報活動を模索するとともに観客のニーズ調査を実施し、劇団関係者へ還元していく。あわせて、来場できないこどもたちに対しては、積極的にアウトリーチ活動を行うなど、劇団と一体となり取り組みを進めていく。

備考

【評価項目①：創造性・企画性】

公演事業　公-01　いいだ人形劇フェスティバル派遣事業





人材養成事業　人-03 人形劇未来創造事業（初心者のための人形劇講座）





【評価項目②：国際性】

公-03　札幌国際人形劇フェスティバル（あおぞらピクニックシアター・パペットカー公演）









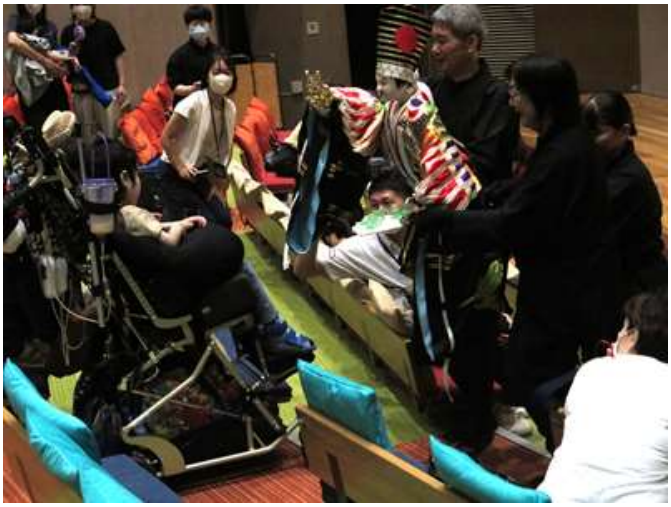


人形劇団プーク（東京）
×ソフィア人形劇場（ブルガリア）

「カモメに飛ぶことを教えたドラ猫の物語」



【評価項目③：地域文化拠点機能】





【評価項目④：多様性とアクセシビリティ】
公-02　インクルーシブ公演事業（舞台手話通訳付公演）







